

## 要旨

目的：本研究の目的は、出産経験のあるミャンマー人女性たちが、自身の出産体験を語った体験や、他の女性および日本人女性が出産体験を語るメッセージビデオを視聴することによって生じる変化や反応を明らかにすることである。

方法：本研究は質的記述的研究デザインを用いた。新潟大学の有森ら(2016)の「分かち合いから得られる出産の多様性と共通性」プロジェクトの中で、2016年12月にメッセージビデオの撮影に協力してくれた女性10名（シャン州チャイトンタウンシップ在住）を対象に、完成したビデオメッセージの視聴を依頼した。視聴後、昨年の撮影時の出産体験の語りにより生じた思いと、今回のメッセージビデオの視聴を介して他者の出産体験を共有したことで生じた思いを、半構成的面接法により収集した。女性たちが自らの出産体験を語ること、および他の女性の出産体験を共有することによって生じる変化や反応の具体的内容を記述し、そこに存在する概念を抽出する分析を行った。

結果：面接した7名の女性は、平均年齢が23（範囲17-37）歳で、アカ族が7名中5名だった。1回経産婦が過半数を占め、分娩場所は病院が6名、自宅が1名であった。ミャンマー人女性が出産体験を語ることによって生じたものとして【語る機会を肯定的に受け止める】、【語りが他の女性の役に立つ喜び】の2つのカテゴリーが抽出された。また、他者の出産体験を共有することによって生じたものとして【出産体験を共有した喜び】、【出産体験の想起】、【出産に関する共通性の発見】、【出産に関する差異の発見】、【出産場所への共感がもたらす安堵感】、【出産への希望】、【出産に関する選択を支援する必要性の気付き】、【出産体験を他者にも知って欲しいとの願い】の8つのカテゴリーが抽出された。

結論：ミャンマー人女性が出産を語るとは、聴く側の継続的な関わりを前提とする肯定的な思いにつながっていた。また、メッセージビデオ視聴を介した出産体験の共有により、出産に関する情報共有と、その選択を支援する必要性が示唆された。